専攻分野/コース (英文名)	耳鼻咽喉科学 (Otolaryngology)
研究指導教員	小森　学

研究・教育の概略	耳鼻咽喉科学は、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚などの感覚器、ならびに発声・構音、つまり、コミュニケーション全般に関連する部位の疾患を扱っている。それ以外にも嚥下、睡眠なども扱っており、これらの障害は QOL に重大な影響をおよぼす。しかし、耳鼻咽喉科学が対象とする各臓器は、解剖学的にも生理学的にも理解が困難なことが多い。特論においては、耳科学、鼻科学、口腔咽頭科学、喉頭科学各領域の解剖学、生理学を理解する。また、耳鼻咽喉科学が扱う各疾患の理解と、全身疾患における、耳鼻咽喉科疾患のかかわりを理解する。 指導目標 1.　耳鼻咽喉科学が扱う感覚器ならびに発声・構音に関連する部位の理解 聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、言語など、人間の生活に不可欠な機能を学び、臨床病態の解明への問題点を選択し、耳鼻咽喉科疾患の病態を理解できるような研究指導を行う。 2.　頭頸部悪性腫瘍の発生因子 頭頸部悪性腫瘍のなかでも喉頭癌は性差が大きく、また、上咽頭癌では EB Virus、中咽頭癌では Human Papilloma Virus(HPV)の関連が示唆されているが、本態は明らかでない。以上の観点から、①頭頸部腫瘍発生における virus 感染　②喉頭組織と性ホルモン　③ホルモン依存性発癌　④頭頸部悪性腫瘍における細胞性免疫の動態などについて、in situ hybridization、polymerase chain reaction(PCR)の手法を用いた分子生物学的研究指導を行う。
研究項目	1. 中耳真珠腫の原因解明 2. 小児耳鼻咽喉科疾患と成長との因果関係についての解明 3. めまい平衡障害の外科的治療法についての確立 4. 頭頸部悪性腫瘍の発生因子の解明
準備学習(予習・復習)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。

2026 年度講義シラバス（1）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	術後症例検討Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線　3262		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	術後症例の術式を検討し問題点の有無について検討する				
講義計画	術後症例について、術前診断、術式の選択が適切であったかどうかを術前検査所見、術中の所見等を参考に検討する				
達成目標	1．各疾患の重症度に応じた術式を選択することができる 2．術式に関する問題点を列挙し、エビデンスに基づいた対応方法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と検討会内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	前週に手術を施行した症例の検討	1	前週に手術を施行した症例の検討
2	前週に手術を施行した症例の検討	2	前週に手術を施行した症例の検討
3	前週に手術を施行した症例の検討	3	前週に手術を施行した症例の検討
4	前週に手術を施行した症例の検討	4	前週に手術を施行した症例の検討
5	前週に手術を施行した症例の検討	5	前週に手術を施行した症例の検討
6	前週に手術を施行した症例の検討	6	前週に手術を施行した症例の検討
7	前週に手術を施行した症例の検討	7	前週に手術を施行した症例の検討
8	前週に手術を施行した症例の検討	8	前週に手術を施行した症例の検討
9	前週に手術を施行した症例の検討	9	前週に手術を施行した症例の検討
10	前週に手術を施行した症例の検討	10	前週に手術を施行した症例の検討
11	前週に手術を施行した症例の検討	11	前週に手術を施行した症例の検討
12	前週に手術を施行した症例の検討	12	前週に手術を施行した症例の検討
13	前週に手術を施行した症例の検討	13	前週に手術を施行した症例の検討
14	前週に手術を施行した症例の検討	14	前週に手術を施行した症例の検討
15	前週に手術を施行した症例の検討	15	前週に手術を施行した症例の検討

2026 年度講義シラバス（2）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	術後症例検討Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線　3262		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	術後症例の術式を検討し問題点の有無について検討する				
講義計画	術後症例について、術前診断、術式の選択が適切であったかどうかを術前検査所見、術中の所見等を参考に検討する				
達成目標	1．各疾患の重症度に応じた術式を選択することができる 2．術式に関する問題点を列挙し、エビデンスに基づいた対応方法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と検討会内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	前週に手術を施行した症例の検討	1	前週に手術を施行した症例の検討
2	前週に手術を施行した症例の検討	2	前週に手術を施行した症例の検討
3	前週に手術を施行した症例の検討	3	前週に手術を施行した症例の検討
4	前週に手術を施行した症例の検討	4	前週に手術を施行した症例の検討
5	前週に手術を施行した症例の検討	5	前週に手術を施行した症例の検討
6	前週に手術を施行した症例の検討	6	前週に手術を施行した症例の検討
7	前週に手術を施行した症例の検討	7	前週に手術を施行した症例の検討
8	前週に手術を施行した症例の検討	8	前週に手術を施行した症例の検討
9	前週に手術を施行した症例の検討	9	前週に手術を施行した症例の検討
10	前週に手術を施行した症例の検討	10	前週に手術を施行した症例の検討
11	前週に手術を施行した症例の検討	11	前週に手術を施行した症例の検討
12	前週に手術を施行した症例の検討	12	前週に手術を施行した症例の検討
13	前週に手術を施行した症例の検討	13	前週に手術を施行した症例の検討
14	前週に手術を施行した症例の検討	14	前週に手術を施行した症例の検討
15	前週に手術を施行した症例の検討	15	前週に手術を施行した症例の検討

2026 年度講義シラバス（3）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	術前症例検討Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線　3262		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	手術適応を的確に決定する				
講義計画	術前症例について、術前検査所見等を参考に、術式を選択する				
達成目標	1．各疾患の重症度に応じた術式を選択することができる 2．術式に関する問題点を列挙し、エビデンスに基づいた対応方法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と検討会内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	次週に手術を施行する症例の検討	1	次週に手術を施行する症例の検討
2	次週に手術を施行する症例の検討	2	次週に手術を施行する症例の検討
3	次週に手術を施行する症例の検討	3	次週に手術を施行する症例の検討
4	次週に手術を施行する症例の検討	4	次週に手術を施行する症例の検討
5	次週に手術を施行する症例の検討	5	次週に手術を施行する症例の検討
6	次週に手術を施行する症例の検討	6	次週に手術を施行する症例の検討
7	次週に手術を施行する症例の検討	7	次週に手術を施行する症例の検討
8	次週に手術を施行する症例の検討	8	次週に手術を施行する症例の検討
9	次週に手術を施行する症例の検討	9	次週に手術を施行する症例の検討
10	次週に手術を施行する症例の検討	10	次週に手術を施行する症例の検討
11	次週に手術を施行する症例の検討	11	次週に手術を施行する症例の検討
12	次週に手術を施行する症例の検討	12	次週に手術を施行する症例の検討
13	次週に手術を施行する症例の検討	13	次週に手術を施行する症例の検討
14	次週に手術を施行する症例の検討	14	次週に手術を施行する症例の検討
15	次週に手術を施行する症例の検討	15	次週に手術を施行する症例の検討

2026 年度講義シラバス（4）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	術前症例検討Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線　3262		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	手術適応を的確に決定する				
講義計画	術前症例について、術前検査所見等を参考に、術式を選択する				
達成目標	1．各疾患の重症度に応じた術式を選択することができる 2．術式に関する問題点を列挙し、エビデンスに基づいた対応方法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と検討会内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	次週に手術を施行する症例の検討	1	次週に手術を施行する症例の検討
2	次週に手術を施行する症例の検討	2	次週に手術を施行する症例の検討
3	次週に手術を施行する症例の検討	3	次週に手術を施行する症例の検討
4	次週に手術を施行する症例の検討	4	次週に手術を施行する症例の検討
5	次週に手術を施行する症例の検討	5	次週に手術を施行する症例の検討
6	次週に手術を施行する症例の検討	6	次週に手術を施行する症例の検討
7	次週に手術を施行する症例の検討	7	次週に手術を施行する症例の検討
8	次週に手術を施行する症例の検討	8	次週に手術を施行する症例の検討
9	次週に手術を施行する症例の検討	9	次週に手術を施行する症例の検討
10	次週に手術を施行する症例の検討	10	次週に手術を施行する症例の検討
11	次週に手術を施行する症例の検討	11	次週に手術を施行する症例の検討
12	次週に手術を施行する症例の検討	12	次週に手術を施行する症例の検討
13	次週に手術を施行する症例の検討	13	次週に手術を施行する症例の検討
14	次週に手術を施行する症例の検討	14	次週に手術を施行する症例の検討
15	次週に手術を施行する症例の検討	15	次週に手術を施行する症例の検討

2026 年度講義シラバス（5）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	最新論文検討Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線　3262		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	耳鼻咽喉科学領域の最新論文の検討				
講義計画	最新論文を検討し、専門領域のトレンドと最新の知見を得る				
達成目標	1.　問題点を抽出し疑問点を解決するのに役立つ論文の効率的な検索ができる 2. 論文の信頼性の評価、論文の結論を応用することの妥当性の評価ができる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と検討会内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	最新論文の検討	1	最新論文の検討
2	最新論文の検討	2	最新論文の検討
3	最新論文の検討	3	最新論文の検討
4	最新論文の検討	4	最新論文の検討
5	最新論文の検討	5	最新論文の検討
6	最新論文の検討	6	最新論文の検討
7	最新論文の検討	7	最新論文の検討
8	最新論文の検討	8	最新論文の検討
9	最新論文の検討	9	最新論文の検討
10	最新論文の検討	10	最新論文の検討
11	最新論文の検討	11	最新論文の検討
12	最新論文の検討	12	最新論文の検討
13	最新論文の検討	13	最新論文の検討
14	最新論文の検討	14	最新論文の検討
15	最新論文の検討	15	最新論文の検討

2026 年度講義シラバス（6）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	最新論文検討Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線　3262		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	耳鼻咽喉科学領域の最新論文の検討				
講義計画	最新論文を検討し専門領域のトレンドと最新の知見を得る				
達成目標	1.　問題点を抽出し疑問点を解決するのに役立つ論文の効率的な検索ができる 2. 論文の信頼性の評価、論文の結論を応用することの妥当性の評価ができる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と検討会内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	最新論文の検討	1	最新論文の検討
2	最新論文の検討	2	最新論文の検討
3	最新論文の検討	3	最新論文の検討
4	最新論文の検討	4	最新論文の検討
5	最新論文の検討	5	最新論文の検討
6	最新論文の検討	6	最新論文の検討
7	最新論文の検討	7	最新論文の検討
8	最新論文の検討	8	最新論文の検討
9	最新論文の検討	9	最新論文の検討
10	最新論文の検討	10	最新論文の検討
11	最新論文の検討	11	最新論文の検討
12	最新論文の検討	12	最新論文の検討
13	最新論文の検討	13	最新論文の検討
14	最新論文の検討	14	最新論文の検討
15	最新論文の検討	15	最新論文の検討

2026 年度講義シラバス（7）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	耳鼻咽喉科学特論（解剖・生理）			必修/選択	必修
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線　3262		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	耳鼻咽喉科学に関連する事項基礎的な事項を理解する				
講義計画	耳鼻咽喉科学に関連する基礎的な事項とその問題点を理解する				
達成目標	1．耳鼻咽喉科学領域の解剖・生理について説明できる 2．耳鼻咽喉科学に関連する問題点を列挙し、エビデンスに基づいた対応方法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期（回）	内　容　（出席㊞）	後期（回）	内　容　（出席㊞）
1	耳の解剖・生理	1	口腔・咽頭の解剖・生理
2	耳の解剖・生理	2	口腔・咽頭の解剖・生理
3	耳の解剖・生理	3	口腔・咽頭の解剖・生理
4	耳の解剖・生理	4	口腔・咽頭の解剖・生理
5	耳の解剖・生理	5	口腔・咽頭の解剖・生理
6	耳の解剖・生理	6	口腔・咽頭の解剖・生理
7	耳の解剖・生理	7	口腔・咽頭の解剖・生理
8	耳の解剖・生理	8	喉頭の解剖・生理
9	鼻・副鼻腔の解剖・生理	9	喉頭の解剖・生理
10	鼻・副鼻腔の解剖・生理	10	喉頭の解剖・生理
11	鼻・副鼻腔の解剖・生理	11	喉頭の解剖・生理
12	鼻・副鼻腔の解剖・生理	12	喉頭の解剖・生理
13	鼻・副鼻腔の解剖・生理	13	喉頭の解剖・生理
14	鼻・副鼻腔の解剖・生理	14	喉頭の解剖・生理
15	鼻・副鼻腔の解剖・生理	15	喉頭の解剖・生理

2026 年度講義シラバス（8）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	耳鼻咽喉科学特論（検査・診断学）			必修/選択	必修
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線　3262		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	1年		
テーマと目的	耳鼻咽喉科学領域で施行される各種検査法を理解する				
講義計画	耳鼻咽喉科学領域で施行される各種検査法とその問題点を理解する				
達成目標	1．耳鼻咽喉科学領域で施行される各種検査法について説明できる 2．耳鼻咽喉科学領域で施行される各種検査法に関連する問題点を列挙し、エビデンスに基づいた対応方法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	耳の検査（ 平衡覚 ）	1	口腔・咽頭の検査
2	耳の検査（ 平衡覚 ）	2	口腔・咽頭の検査
3	耳の検査（ 平衡覚 ）	3	口腔・咽頭の検査
4	耳の検査（ 平衡覚 ）	4	口腔・咽頭の検査
5	耳の検査（ 平衡覚 ）	5	口腔・咽頭の検査
6	耳の検査（ 平衡覚 ）	6	口腔・咽頭の検査
7	耳の検査（ 聴覚 ）	7	口腔・咽頭の検査
8	耳の検査（ 聴覚 ）	8	喉頭の検査
9	耳の検査（ 聴覚 ）	9	喉頭の検査
10	耳の検査（ 聴覚 ）	10	喉頭の検査
11	耳の検査（ 聴覚 ）	11	喉頭の検査
12	鼻・副鼻腔の検査	12	喉頭の検査
13	鼻・副鼻腔の検査	13	喉頭の検査
14	鼻・副鼻腔の検査	14	喉頭の検査
15	鼻・副鼻腔の検査	15	喉頭の検査

2026 年度講義シラバス（9）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	耳鼻咽喉科学疾患病態学Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線　3262		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	耳鼻咽喉科学に関連する基本的な疾患の病態を理解する				
講義計画	耳鼻咽喉科学に関連する基本的な疾患の病態を理解し、問題点を検討する				
達成目標	1．基本的な耳鼻咽喉科疾患の病態を論理的に説明できる 2．基本的な耳鼻咽喉科疾患の病態に基づいた治療法を計画できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	耳の疾患（ 平衡覚 ）	1	鼻・副鼻腔の疾患
2	耳の疾患（ 平衡覚 ）	2	鼻・副鼻腔の疾患
3	耳の疾患（ 平衡覚 ）	3	鼻・副鼻腔の疾患
4	耳の疾患（ 平衡覚 ）	4	鼻・副鼻腔の疾患
5	耳の疾患（ 平衡覚 ）	5	鼻・副鼻腔の疾患
6	耳の疾患（ 平衡覚 ）	6	鼻・副鼻腔の疾患
7	耳の疾患（ 平衡覚 ）	7	鼻・副鼻腔の疾患
8	耳の疾患（ 平衡覚 ）	8	鼻・副鼻腔の疾患
9	耳の疾患（ 聴覚 ）	9	口腔・咽頭の疾患
10	耳の疾患（ 聴覚 ）	10	口腔・咽頭の疾患
11	耳の疾患（ 聴覚 ）	11	口腔・咽頭の疾患
12	耳の疾患（ 聴覚 ）	12	口腔・咽頭の疾患
13	耳の疾患（ 聴覚 ）	13	口腔・咽頭の疾患
14	耳の疾患（ 聴覚 ）	14	口腔・咽頭の疾患
15	耳の疾患（ 聴覚 ）	15	口腔・咽頭の疾患

2026 年度講義シラバス（10）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	耳鼻咽喉科学疾患病態学Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	瀬尾　徹	担当教員連絡先	内線　3262		
単位数	1単位（前期1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	耳鼻咽喉科学に関連する基本的な疾患の病態を理解する				
講義計画	耳鼻咽喉科学に関連する基本的な疾患の病態を理解し、問題点を検討する				
達成目標	1．基本的な耳鼻咽喉科疾患の病態を論理的に説明できる 2．基本的な耳鼻咽喉科疾患の病態に基づいた治療法を計画できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	喉頭の疾患	1	
2	喉頭の疾患	2	
3	喉頭の疾患	3	
4	喉頭の疾患	4	
5	喉頭の疾患	5	
6	喉頭の疾患	6	
7	喉頭の疾患	7	
8	頭頸部悪性腫瘍	8	
9	頭頸部悪性腫瘍	9	
10	頭頸部悪性腫瘍	10	
11	頭頸部悪性腫瘍	11	
12	頭頸部悪性腫瘍	12	
13	頭頸部悪性腫瘍	13	
14	頭頸部悪性腫瘍	14	
15	頭頸部悪性腫瘍	15	

2026 年度講義シラバス（11）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	耳鼻咽喉科学領域の免疫			必修/選択	必修
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線 3262		
単位数	1単位（後期1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	耳鼻咽喉科学領域の免疫に関する基礎的な事項とその問題点理解する				
講義計画	耳鼻咽喉科学の免疫に関する礎的事項を理解し、問題点を検討する				
達成目標	1．鼻科領域のアレルギー疾患の基礎と病態について論理的に説明できる 2．癌特に頭頸部領域の癌と免疫との関連について論理的に説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	鼻科領域のアレルギー・基礎と臨床
2		2	鼻科領域のアレルギー・基礎と臨床
3		3	鼻科領域のアレルギー・基礎と臨床
4		4	鼻科領域のアレルギー・基礎と臨床
5		5	鼻科領域のアレルギー・基礎と臨床
6		6	鼻科領域のアレルギー・基礎と臨床
7		7	鼻科領域のアレルギー・基礎と臨床
8		8	鼻科領域のアレルギー・基礎と臨床
9		9	癌と免疫
10		10	癌と免疫
11		11	癌と免疫
12		12	癌と免疫
13		13	癌と免疫
14		14	癌と免疫
15		15	癌と免疫

2026 年度講義シラバス（12）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	耳鼻咽喉科学における観血的治療法 実習			必修/選択	必修
担当教員	瀬尾 徹	担当教員連絡先	内線 3262		
単位数	1 単位（前期・後期）	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づいて観血的治療法の理論と実践を学ぶ				
講義計画	耳鼻咽喉科疾患に対する観血的治療法の適応について理解しこれを実践する				
達成目標	1. 観血的治療法が適応となるか否かが判断できる 2. 病態に基づいた手術手技を選択しこれを実践できる				
教科書・参考書	耳鼻咽喉科手術書				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と実習内での受講態度および手技の習熟度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	手術助手および小手術の術者	1	手術助手および小手術の術者
2	手術助手および小手術の術者	2	手術助手および小手術の術者
3	手術助手および小手術の術者	3	手術助手および小手術の術者
4	手術助手および小手術の術者	4	手術助手および小手術の術者
5	手術助手および小手術の術者	5	手術助手および小手術の術者
6	手術助手および小手術の術者	6	手術助手および小手術の術者
7	手術助手および小手術の術者	7	手術助手および小手術の術者
8	手術助手および小手術の術者	8	手術助手および小手術の術者
9	手術助手および小手術の術者	9	手術助手および小手術の術者
10	手術助手および小手術の術者	10	手術助手および小手術の術者
11	手術助手および小手術の術者	11	手術助手および小手術の術者
12	手術助手および小手術の術者	12	手術助手および小手術の術者
13	手術助手および小手術の術者	13	手術助手および小手術の術者
14	手術助手および小手術の術者	14	手術助手および小手術の術者
15	手術助手および小手術の術者	15	手術助手および小手術の術者

2026 年度講義シラバス（13）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	頭頸部腫瘍学			必修/選択	選択
担当教員	小森　学		担当教員連絡先	内線 3262	
単位数	2 単位（前期 1･後期 1）		履修年次	2 年	
テーマと目的	耳鼻咽喉科学に関連する基本的な腫瘍学の病態を理解する				
講義計画	耳鼻咽喉科学に関連する基本的な腫瘍学を理解し、その問題点検討する				
達成目標	1. 基本的な耳鼻咽喉科領域の腫瘍について説明できる 2. 基本的な耳鼻咽喉科領域の腫瘍について問題点を列挙し、エビデンスに基づいた対応法を説明できる				
教科書･参考書	別途指示				
準備学習(予習･復習･時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	副鼻腔の腫瘍	1	中咽頭の腫瘍
2	副鼻腔の腫瘍	2	下咽頭の腫瘍
3	副鼻腔の腫瘍	3	下咽頭の腫瘍
4	副鼻腔の腫瘍	4	下咽頭の腫瘍
5	口腔の腫瘍	5	下咽頭の腫瘍
6	口腔の腫瘍	6	舌の腫瘍
7	口腔の腫瘍	7	舌の腫瘍
8	口腔の腫瘍	8	舌の腫瘍
9	上咽頭の腫瘍	9	舌の腫瘍
10	上咽頭の腫瘍	10	舌の腫瘍
11	上咽頭の腫瘍	11	喉頭の腫瘍
12	上咽頭の腫瘍	12	喉頭の腫瘍
13	中咽頭の腫瘍	13	喉頭の腫瘍
14	中咽頭の腫瘍	14	喉頭の腫瘍
15	中咽頭の腫瘍	15	喉頭の腫瘍

2026 年度講義シラバス（14）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	基礎耳科学			必修/選択	選択
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線 3262		
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	耳鼻咽喉科学に関連する基本的な耳科学を理解する				
講義計画	耳鼻咽喉科学に関連する基本的な耳科学を理解し、その問題点検討する				
達成目標	1. 耳科学領域の解剖・生理について説明できる 2.耳科学に関連する問題点を列挙しエビデンスに基づいた対応方法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	末梢前庭系の解剖	1	中枢前庭系の生理
2	末梢前庭系の解剖	2	末梢聴覚の解剖
3	末梢前庭系の解剖	3	末梢聴覚の解剖
4	末梢前庭系の解剖	4	末梢聴覚の解剖
5	末梢前庭系の生理	5	末梢聴覚の生理
6	末梢前庭系の生理	6	末梢聴覚の生理
7	末梢前庭系の生理	7	末梢聴覚の生理
8	末梢前庭系の生理	8	中枢聴覚の解剖
9	中枢前庭系の解剖	9	中枢聴覚の解剖
10	中枢前庭系の解剖	10	中枢聴覚の解剖
11	中枢前庭系の解剖	11	中枢聴覚の解剖
12	中枢前庭系の解剖	12	中枢聴覚の生理
13	中枢前庭系の生理	13	中枢聴覚の生理
14	中枢前庭系の生理	14	中枢聴覚の生理
15	中枢前庭系の生理	15	中枢聴覚の生理

2026 年度講義シラバス（15）

講義コード	※	専攻分野	耳鼻咽喉科学		
講義題目	臨床耳科学			必修/選択	選択
担当教員	瀬尾　徹	担当教員連絡先	内線 3262		
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	耳鼻咽喉科学に関連する基本的な耳疾患を理解する				
講義計画	耳鼻咽喉科学に関連する基本的な耳疾患を理解し、その問題点を検討する				
達成目標	1. 耳鼻咽喉科領域の耳疾患について説明できる 2. 耳鼻咽喉科領域の耳疾患について問題点を列挙し、エビデンスに基づいた対応法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	耳鼻咽喉科学各領域を自立して研究を行い、論文作成ならび発表を積極的に行い能力を付ける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	末梢前庭系の疾患	1	末梢聴覚の疾患
2	末梢前庭系の疾患	2	末梢聴覚の疾患
3	末梢前庭系の疾患	3	末梢聴覚の疾患
4	末梢前庭系の疾患	4	末梢聴覚の疾患
5	末梢前庭系の疾患	5	末梢聴覚の疾患
6	末梢前庭系の疾患	6	末梢聴覚の疾患
7	末梢前庭系の疾患	7	末梢聴覚の疾患
8	末梢前庭系の疾患	8	末梢聴覚の疾患
9	中枢前庭系の疾患	9	中枢聴覚の疾患
10	中枢前庭系の疾患	10	中枢聴覚の疾患
11	中枢前庭系の疾患	11	中枢聴覚の疾患
12	中枢前庭系の疾患	12	中枢聴覚の疾患
13	中枢前庭系の疾患	13	中枢聴覚の疾患
14	中枢前庭系の疾患	14	中枢聴覚の疾患
15	中枢前庭系の疾患	15	中枢聴覚の疾患